

# 第4回 町田駅周辺整備計画 有識者検討委員会 議事要旨

## 1. 日時

2024年1月25日（木）13:00～15:00

## 2. 場所

町田市役所 4階 政策会議室

## 3. 出席者

市川委員長、真野副委員長、服部委員、田中委員、萩野委員  
（島原委員、森本委員は欠席）

## 4. 議事

（仮称）町田駅周辺整備計画の素案について、議論を行った。

### （仮称）町田駅周辺整備計画について

- ・ 町田の魅力は計画素案に記載されたもの以外にもたくさんある。
- ・ 老朽化した結果、街の魅力が減ったという説明にならないようにすべき。
- ・ 地権者に対しては、どのような機能が必要かというより、なぜその機能が必要かということの説明する必要がある。
- ・ 例えば、「こういう暮らし方を描きたいから、それを実現する要素の一つとしてシネコンがある」という説明の方が市民は納得できるのでは。
- ・ 集客施設を整備したにもかかわらず集客できなかった事例もあれば、広場のみで集客できた事例もある。市が何を目指したいかを打ち出すことが重要。
- ・ A～C地区については民間再開発のため、何かきっかけがなければ開発は進まない。D地区で行政が集客施設を誘導し賑わいを創出することが、A～C地区の開発推進にもつながる。
- ・ 「こういう機能が必要である」というリストを載せるだけでは短絡的な発想であるが、市民にも必要性が分かりやすく伝わる工夫をしたうえで記載しても良いのでは。
- ・ 例えば、災害時における避難機能の役割も果たすホールであるとか、広場だけではなくそこに店舗を設け、空間の繋ぎ方を工夫することでにぎわいが創出されるといった説明をしていくと伝わりやすい。
- ・ 導入される機能の数よりは、機能の質にこだわってもらいたい。

- ・ 整備計画はデザインのルールや方針を決めるものではないと認識している。
- ・ 整備計画については、あくまで議論するための素材として考えた方が良い。
- ・ 他都市にあるような機能を入れるだけだと二番煎じのように見えて効果的ではない。
- ・ 町田の駅前にはタワマンのない駅前にしてもらいたい。
- ・ 事業性の観点からはタワマンは避けられないのではと思う。

### 今後のまちづくりの実現に向けて

- ・ 駅前にオープンスペースがどの程度必要なのかも議論すべき。
- ・ 地権者や事業者に共感を得てもらうことが目的の一つにあると思うが、地元に対して市の思いを伝える機会（勉強会や意見交換会等）を設けることも重要。
- ・ にぎわいの機能を地権者や事業者に働きかけるうえでも将来のモビリティを含めた公共交通の在り方とセットで考える必要があると考える。
- ・ 共通指針として、行政の支援や基盤の在り方などについても今後の取り組みとして記載した方が良い。
- ・ 今後の取り組みの記載が特に重要。もっと丁寧に記載して良い。
- ・ 外部組織を参画させるようなプラットフォームも検討すべき。
- ・ 整備完了後のまちが上手く機能するためにはエリアマネジメントの管理運営体制も重要。
- ・ 賑わいの顔づくり等のデザインに関する事項や、公共交通体系を議論する会議体が必要である。そこには行政だけでなく地権者・事業者・市民も含めて議論できることが望ましい。
- ・ 何十年後先のことを考えるとエネルギーの視点も重要。
- ・ 付置義務駐車場に関して、将来を考えると利用率や稼働率を分析したうえで必要な規模を市の公共交通施策として整理すべき。

※当日欠席の委員からは事前に意見をもらい、事務局で代読を行った。

以上